



### 科學 酒と砂糖 (五)

醫學博士 五十嵐雄二

一、酒の毒  
もし翌朝醒れた水が大に甘いやうならこれは既に中毒状態に達してしまつたのである。人体に於て毒量たと心得て次の時には一合半に減量すべきである。尚酒に強い人がアルコホールの最小限度で早く陶然酔倒を起すに注意して食物によつて酒の毒を緩和されることとを交互に飲むことである。ビールは吸収速度が速く、アルコールの毒は緩く、これを早め炭酸ガスの刺激はアルコホールの効果をゆるめかからせる。

酒の解毒、酒毒の預防法  
酒の項を終るにあつて酒毒の預防を介紹しよう。酒毒の預防は酒毒の性質を研究し、その結果に依つて酒の毒はビタミンBによつて防げることが明らかとなつて居る。氏は白鼠に酒を毎日多量に與へ、一方餌の中に酵母(ビタミンB含有)を加へておくと酒の有害作用は全く現はれなく、この混する酵母の分量が少くなると酒の毒が現はれるといふ。要するに毎日多量の酒を飲んでも酵母を相當量攝つて居れば毒を受けずに済むことが判つた。この實驗によつてアルコホールの代謝にはビタミンBが大いに關係して居るのが明らかになつたが恐らく体内に流れ込んだアルコホールの代用にはビタミンBが冬あたたかにすこしします。

### 村の正月

原田小太郎

風除よけの懸  
桃畑など  
ひらかれて  
あたらしい家  
ある 村の  
古い家に

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

### 歸郷

上田 冷人

吾妻のこころし山脈を眺めて  
(下)  
○深淵のヒタ／＼うてる波の色 たゞびびびて  
こころし沈めし  
○霜凍る外を今日南より 風吹き波り波ゆたか  
な。  
○冬の日の書開かなれり端の 岸うつ波はヒタ  
ひた遊へり  
○冬されの外の水ゆたかなり 浪かに波はおの  
づ沈めし

### 都跡村

平城京址 辰巳 和子

都跡の跡  
原つばは  
お正月でも  
さみしいな  
ふるい草家の

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

### 天 氣 豫 報

小名浜 藤原 晴

今晩は南西の風晴  
明日は南東の風晴

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

「一國文化の高低は砂糖の消費量を見れば判る」とは我々青年時代によく耳にした言葉であつた。事實都會地には砂糖の消費量は多く、邊鄙な田舎にゆくと減じて居るのは誰も認める所である。我國は歐米諸國との砂糖消費量を比較して見ても同様のことが言へるのであつた。しかし文化人であればあるほど糖類を用ひ、今では黒砂糖の如きは都會地では容易に見ることも出来ない状態になつた。

### 講 談

藤原 晴

「お前さん、此頃大分家を外に遊ぶそなたなア」  
「なかなかにア、飛んでいらない、何處から左様なことをお聞かせしたかは存じませんが、手前が家を閉めさせましたら商賈を休まなければなりません」  
「二、三事件に關し、政府の発表、叛亂の元將校野中大尉自決(昭和一二)判せ」  
「それは、益々迷惑に存じます。手前に左様な覺えはまつたく御座いません」  
「御案内は前さんと、さう云ひながら、茂十は右手を出して、先づ親指を折つた」  
「手前の外には小僧が二人、それから番頭が一人、それだけで御座います」  
「それだけ、御座居るは」  
「親指さん」  
「親が生きて居て呉れたら多少危なくは思つた刑部

### 追憶滿洲事變

珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平

追憶滿洲事變  
珠雲 小野野平



手前が主人 當家の主人

だが、町人前垂掛の此こゝに苦勞をしないですの姿、よもや黒猫の情夫でひので御座いますか」  
「はい、兩親共に早く亡したつて見破るまいと、たか」  
「お待たせ申しました。手前は手前の外に、まつたく唯前が當家の主人、京之助で今申しました三人だけの御座います」  
「茂十は、流し目にぢろり」と見やつて  
「京之助は、外でもね、間違ひで御座いませんか」  
「一寸と外から閉き込めたことがあつて、訪ねて来たんだ、包まずに云つて食つて」  
「一體どのような事で御座病話を聞かされたのだ、お

前が道樂で困るとな」  
「飛んでもないことでそれ何か企んだ輩の出目、待たしては御座いませんか、手前、小僧は何も存じませんが、其の家は先程から申します通り、隠居などは御座いません」  
「さうか、ぢやアもし、その老人について、た前も何にか必當で御座いますか」  
「左様で御座いますね、さす仰れば……お、あり」  
「なる程」  
「茂十はありさうなことをあつて」  
「手前が當地へ参りましたのはまだついで此の間で、はなした、それぢやアお前さんに日が浅う御座います。先申しました通り、た一人、さうして出て参りました者で、親類も縁者も皆手前の留守に店へやつて参んな故郷に居ります」

「お前さん、此頃大分家を外に遊ぶそなたなア」  
「なかなかにア、飛んでいらない、何處から左様なことをお聞かせしたかは存じませんが、手前が家を閉めさせましたら商賈を休まなければなりません」  
「二、三事件に關し、政府の発表、叛亂の元將校野中大尉自決(昭和一二)判せ」  
「それは、益々迷惑に存じます。手前に左様な覺えはまつたく御座いません」  
「御案内は前さんと、さう云ひながら、茂十は右手を出して、先づ親指を折つた」  
「手前の外には小僧が二人、それから番頭が一人、それだけで御座います」  
「それだけ、御座居るは」  
「親指さん」  
「親が生きて居て呉れたら多少危なくは思つた刑部

### 高久病院

高久 清忠

内科 小児科  
外科 花柳病科  
耳鼻咽喉科  
新海醫學士 高久 清忠  
藥劑士 佐竹 菊雄

### 平みやげ

米屋最中専門

平みやげ  
米屋最中専門

平みやげ  
米屋最中専門

平みやげ  
米屋最中専門

中古各種レール鐵管  
礦山用機械器具類  
製鐵原料問屋  
十二封度レール、トロ車輪付屬附  
鐵工器具品 新品着荷致しました  
海軍工廠御用達  
鋼鐵 井尻七三郎商店  
機械 福島縣平市鍛冶町十一番  
電話五二二番  
倉庫 平市鍛冶町廿三番地  
倉庫 平市鍛冶町九番地  
御買上品精々御安く納品致します  
御拂下品は精々御高値に買受ます

「お前さん、此頃大分家を外に遊ぶそなたなア」  
「なかなかにア、飛んでいらない、何處から左様なことをお聞かせしたかは存じませんが、手前が家を閉めさせましたら商賈を休まなければなりません」  
「二、三事件に關し、政府の発表、叛亂の元將校野中大尉自決(昭和一二)判せ」  
「それは、益々迷惑に存じます。手前に左様な覺えはまつたく御座いません」  
「御案内は前さんと、さう云ひながら、茂十は右手を出して、先づ親指を折つた」  
「手前の外には小僧が二人、それから番頭が一人、それだけで御座います」  
「それだけ、御座居るは」  
「親指さん」  
「親が生きて居て呉れたら多少危なくは思つた刑部

私は平市出身です。特に郷里の首領方の爲めに御便宜を圖ります。主人 比佐棟雄

電話下谷園六七番  
前野野上東京  
角通横局便郵谷下

### 潮の華

泉屋菓子舖

潮の華  
泉屋菓子舖

潮の華  
泉屋菓子舖

潮の華  
泉屋菓子舖

### 高柳醫院

高柳 博明

耳鼻咽喉科専門  
レントゲン科  
高柳醫院  
醫學博士 高柳 博明  
看護婦募集

根本産科専門醫院  
根本 莊次郎  
根本 貞雄  
根本 貞雄  
電話三四番

根本産科専門醫院  
根本 莊次郎  
根本 貞雄  
根本 貞雄  
電話三四番

内 科  
胃腸病科  
皮膚科  
性病科  
花柳病科  
性病科  
皮膚科  
院醫科性胃腸村松  
(番七〇一電町南市平)

### 木村外科醫院

木村 橋次郎

木村外科醫院  
木村 橋次郎

木村外科醫院  
木村 橋次郎

木村外科醫院  
木村 橋次郎

### 安齊醫院

安齊 長安

安齊醫院  
安齊 長安

安齊醫院  
安齊 長安

安齊醫院  
安齊 長安

婦人科 醫學博士  
五十嵐雄二  
電話三六九番

根本産科専門醫院  
根本 莊次郎  
根本 貞雄  
根本 貞雄  
電話三四番

根本産科専門醫院  
根本 莊次郎  
根本 貞雄  
根本 貞雄  
電話三四番

### 大和田醫院

大和田 貞雄

大和田醫院  
大和田 貞雄

大和田醫院  
大和田 貞雄

大和田醫院  
大和田 貞雄

### 開内藥局

開内 貞雄

開内藥局  
開内 貞雄

開内藥局  
開内 貞雄

開内藥局  
開内 貞雄

根本産科専門醫院  
根本 莊次郎  
根本 貞雄  
根本 貞雄  
電話三四番

根本産科専門醫院  
根本 莊次郎  
根本 貞雄  
根本 貞雄  
電話三四番

